

芦野里実

## 一三〇センチの空

宇宙ステーションが、のどかに流れます  
夜の公園で背のびしたら、  
ぼくは一三〇センチ  
目をこらします

おとなより地球に近いから  
空はそのぶん広いでしょ  
いまぼくは、ことばも空も  
たっぷり持っているんだ

だから一三〇センチで見た空は  
一生忘れることはできないみたい

パン屋のおじいちゃんが

疎開先で見た

富士山へ連なって飛んできたB29が  
頂上でいろんな方角に散って行ったから  
とても悲しかったよ、って毎年話すのも

ママが

校庭で見た飛行船が、海をゆったり泳ぐ  
くじらみたいだったって五月にいつも言うのも

一三〇センチ近くには  
人間が忘れられなくなった空たちが  
ぎゅっと透明に寒天みたいにかたまっている

僕はだから

一番地球から遠くで生きている人を  
見てたって言おうって決めたんだ